

(1993年11月26日設立)

英語語法文法学会 THE SOCIETY OF ENGLISH GRAMMAR AND USAGE

## 事務局便り

No. 34

2019年4月12日

会 長 大室剛志

事務局 〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1 近畿大学経営学部 吉田幸治研究室内

tel.: 06-4307 4307 -3365 3365 (研究室) / fax: 06-6729-2493 (経営学部 教養・基礎教育部門)

Email: segu.office@gmail.com

ウェブサイト: <http://segu.sakura.ne.jp>

郵便振替口座 02260-0-70393 英語語法文法学会

## ◆『英語語法文法研究』第25号刊行

『英語語法文法研究』第25号が2018年12月に刊行されました。第25回大会でのシンポジウム「英語の文をつなぐ接続現象」の論文3編のほか、6本の研究論文が掲載されています。

## ◆第27回大会開催案内

英語語法文法学会第27回大会を下記の要領で開催します。

なお、研究発表の応募方法が大きく変更されますので、後述の新しい応募規定を十分にご参照いただき、ご応募くださいますようお願い致します。

日時：2019（令和元）年10月19日（土）

会場：北九州市立大学

（〒802-8577 北九州市小倉南区北方 4 丁目 2 番 1 号）

<https://www.kitakyu-u.ac.jp/>

順路（大学ウェブサイトより）：

## ■JR をご利用の方

長崎方面より長崎本線で博多駅乗換え、鹿児島本線で小倉駅

鹿児島方面より鹿児島本線・九州新幹線で小倉駅  
宮崎方面より日豊本線で小倉駅

広島方面より山陽本線・山陽新幹線で小倉駅

<いずれも小倉駅到着後、北九州モノレールに乗り換え>

北九州モノレール小倉駅より約 10 分「競馬場前（北九州市立大学前）」下車、徒歩約 3 分

## ■バスをご利用の方

○福岡方面より、福岡天神バスセンターより小倉行高速バス（なかたに号）で約 70 分「競馬場前（北九州市立大学前）」下車 徒歩約 5 分

○小倉・田川方面より西鉄バスで「北方・北九州市立大学前」で下車 徒歩約 3 分

## ■北九州空港からのアクセス

航空機の到着に合わせて西鉄バスが運行しております。九州自動車道・中谷三萩野（高速）経由砂津行きにご乗車ください。

競馬場前（北九州市立大学前）下車 約35分

今回のシンポジウムは、「否定と尺度と談話と一否定表現とその周辺」をテーマとして準備中です。司会、講師および討論者は以下の通りです。

司会・講師：五十嵐海理（龍谷大学）

講師：関茂樹（大阪市立大学）

講師：有光奈美（東洋大学）

討論者：佐野まさき（立命館大学）〔敬称略〕

北九州市内では宿泊予約の困難が予想されます。早めの宿泊予約ならびに近隣都市での予約をお勧めいたします。

## ◆第15回英語語法文法セミナー

標記セミナーを下記の要領で開催いたします。

日時：2019（令和元）年 8 月 5 日（月）  
13 時 30 分～17 時 30 分

会場：関西学院大学大阪梅田キャンパス 1405室  
（〒530-0013 大阪市北区茶屋町19-19  
アプローチタワー14階）

参加費：2,000円（資料代を含む）

今回のテーマは、「教員が知っておくべき英文法」です。司会と講師、各講師のタイトルは以下のとおりです。

司会（兼 講師）前川貴史（龍谷大学）「いわゆる『過去分詞』の前置修飾について」

講師 吉田幸治（近畿大学）「正用と誤用の境界—正誤の要因をめぐって—」

講師 山本修（大阪市立大学）「所有格の読み」

講師 出水孝典（神戸学院大学）「動詞の意味分類—形の裏側には何がある？—」

[敬称略]

5月中旬に応募用のURLを学会HPに掲載します。同時にセミナー要旨もダウンロード可能となる予定です。申し込み締め切り日は7月24日（水）です。必要な方にはセミナー受講証も発行されます。奮ってご参加ください。

### ◆第19回「英語語法文法学会賞」選考結果

初代会長故小西友七先生の寄付金を基金とした「第19回英語語法文法学会賞」（2017年4月1日～2018年3月31日までに出版された単行本が対象）について、今回は「該当者なし」という結果になったことが第26回大会（立命館大学）において大室会長より報告されました。

### ◆第20回「英語語法文法学会賞」について

英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に贈られる第20回学会賞対象図書（推薦（他薦に限る）を受け付けております。対象図書は2018年4月1日～2019年3月31日までに出版された単行本です。（ただし、研究社より順次刊行されている『〈シリーズ〉英文法を解き明かす』全10巻は本賞の対象とはなりませんので、ご注意ください。）

同封の推薦用紙に推薦図書、推薦理由を記入の上、faxあるいは郵便で2019年5月10日までに事務局宛にお送りいただくか、同一の内容をファイルemailで事務局までお知らせください（事務局：〒577-8502 大阪府東大阪市小若江 3-4-1 近畿大学経営学部 吉田幸治研究室内 英語語法文法学会事務局 fax: 06-6729-2493 email: segu.office@gmail.com）。

### 英語語法文法学会賞の授賞に関する規定

（授賞）

第2条 学会賞は、前年度4月1日から翌年3月末日までに、英語の語法・文法に関する優れた単行本を出版した学会会員に対して、学会が設置する「英語語法文法学会賞委員会」（以下「委員会」という）の選考により、運営委員会の議を経て授賞する。

2 授賞は、原則として年度ごとに1件とする。

3 授賞式は年次大会において行う。

（関係部分一部抜粋）

### ◆第9回「英語語法文法学会奨励賞」選考結果

若手会員による英語の語法・文法に関する優れた論文に対して贈られる第9回「英語語法文法学会奨励賞」は、今回は「該当者なし」という結果になったことが第26回大会（立命館大学）において大室会長より報告されました。

なお、第10回「英語語法文法学会奨励賞」は、本年7月10日締め切りの『英語語法文法研究』への応募論文がその対象となります。

### 英語語法文法学会奨励賞授賞規定

（授賞の対象）

第2条 奨励賞は、毎年7月10日を締切日とする。

『英語語法文法研究』への応募論文（研究論文に限る。シンポジウム論文、語法ノート、書評は除く）を対象として、英語語法文法学会の趣旨に照らし、実証性・独創性・発展性に富む、優れた研究に対して授賞する。応募者は上記の締め切り日の時点で、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に限る。

（選考方法）

第3条 編集委員会が選考にあたり、運営委員会の議を経て決定する。奨励賞の授賞は、原則として年度ごとに1篇以内とする。

（選考結果の発表および授賞式）

第4条 翌年度の大会の総会にて行う。受賞者に対しては、賞とともに記念品を贈呈する。

（関係部分一部抜粋）

### ◆名誉顧問の就任

本年3月10日開催の運営委員会において、名誉顧問として以下の方の就任が承認されました。

内田聖二（奈良大学）

[敬称略]

内田先生は本学会創設時からのメンバーのお一人であり、運営委員として、そして会長（2012年度から2015年度までの2期）として、長年学会を引っ張って来て下さいました。今後は名誉顧問として学会の企画・運営についてご助言を頂くこととなります。どうぞ宜しくお願い致します。

## ◆運営委員の交替

本年3月10日開催の運営委員会において、運営委員として以下の方々の就任が承認されました（任期は2019年4月1日より2021年3月末日まで）。

前川貴史（龍谷大学）  
出水孝典（神戸学院大学） [敬称略]

また、本年3月末日をもって、以下の方々が運営委員を退任されました。学会運営に対するこれまでのご尽力に心より感謝申し上げます。

内田聖二（奈良大学）  
澤田茂保（金沢大学） [敬称略]

なお、内田先生には先述の通り名誉顧問にご就任いただくことになりました。また、澤田先生は編集委員にはご留任いただき、引き続き本学会にご協力いただくこととなります。

## ◆運営委員会委員の就任

今年度の各委員会の委員長、副委員長、構成員は下記のとおりです（◎は委員長、○は副委員長）。

大会実行委員会

◎住吉 誠、○大竹芳夫、滝沢直宏、林龍次郎、  
中澤和夫、西田光一、出水孝典

セミナー委員会

◎金澤俊吾、○梅咲敦子、牛江一裕、前川貴史  
[敬称略]

## ◆第27回大会研究発表者募集

第27回大会での「研究発表」の発表者を募集します。会員の方は、下記の研究発表応募規定にしたがい、事務局宛(segu.office@gmail.com)に奮ってご応募下さい。

なお、応募規定は今回から大幅に変更になっております。発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの書式は変更ございませんが、それら書面の郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Formによる投稿確認との2段階で会員の皆さま方の投稿を確実に受け取れるようにしております。

## ＜研究発表応募規定＞

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。

2. 発表時間は25分以内(別に質疑応答が10分)とする。

3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。

① 発表要旨(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

A4判 32字×25行(文字の大きさは12ポイント)で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の実態を体系的に明らかにし、英語の具体的な語彙や構文の特性を実証的に解明することを目的として、未発表のものであること。

② 応募者情報(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email addressを明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

4. 上記①と②は、次の2つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に、①と②をemailに添付し、送信する。件名は「研究発表応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の研究発表応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要事項を入力の上、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会のgmailアドレスにもメールが届く)。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

(4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。

5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)研究発表応募用ウェブページからの記入送信の両方とも、7月25日23時59分(必着)とする。

6. 選考結果は8月中旬までに通知する。

7. 採用者は発表要旨(500字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。  
(2019年3月10日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の 4-2 にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7月10日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

#### ◆第27回大会語法ワークショップ発表者募集

第27回大会の「語法ワークショップ」の発表者を募ります。語や構文などを取り上げ、言語資料に基づきその振る舞いの特性を明らかにすることを目的とします。下記の語法ワークショップ応募規定に従い、事務局宛(segu.office@gmail.com)に奮ってご応募ください。

なお、今回から語法ワークショップでの各自の持ち時間は発表15分と質疑応答5分の計20分となりました。また、先の研究発表応募規定と同様、発表要旨ファイルと応募者情報ファイルの書式は変更ございませんが、書面の郵送による投稿は廃止し、事務局メールアドレスへのファイル送付による投稿と、Google Formによる投稿確認との2段階で会員の方々の投稿を確実に受け取れるようにしております。

##### <語法ワークショップ応募規定>

1. 応募者は英語語法文法学会の会員でなければならない。2名以上の共同研究で応募する場合は、応募者全員が会員でなければならない。
2. 発表時間は15分以内(別に質疑応答が5分)とする。
3. 応募者は、下記①と②の応募書類を作成し、英語語法文法学会事務局に締め切り日までに提出すること。
  - ① 発表要旨(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):  
A4判 32字×25行(文字の大きさは12ポイント)で、本文と注を含めて4枚以内とする。ただし、参考文献表は枚数に含めない。冒頭には発表題名のみを記し、氏名・所属は記入しないこと。要旨の内容は、本学会の設立趣意書に鑑み、個別言語としての英語の具体的な語彙や構文の特性を調査した成果を報告することを目的として、未発表のものであること。
  - ② 応募者情報(MS Word ファイル あるいは PDF ファイル):

発表題目、氏名(ふりがな)、所属・職名(学生会員は学年も記入)、郵便番号、住所、電話番号、email address を明記したもの。①とは別のファイルを作成すること。

4. 上記①と②は、次の2つの手続きにより提出すること。

4-1. 本学会事務局宛(segu.office@gmail.com)に、①と②を email に添付し、送信する。件名は「語法ワークショップ応募」とする。応募者は発表要旨のファイル送信に先立ち、ファイルの「プロパティ」等を確認し、ファイル情報等に作成者名を残さないこと。

4-2. 本学会の語法ワークショップ応募用ウェブページにアクセスする。ウェブページに必要な事項を入力の上、送信すると応募者本人に受領のメールが届く(英語語法文法学会の gmail アドレスにもメールが届く)。ウェブページは、必要事項を全て入力しないと送信できない点に留意すること。

(4-1)事務局へのファイルの送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方がそろった段階で応募が完了する。なお、ウェブページからのメール返信をもって、応募受領の通知とする。

5. 応募締め切りは、(4-1)事務局へのファイル送付と(4-2)語法ワークショップ応募用ウェブページからの記入送信の両方も、7月25日23時59分(必着)とする。
6. 選考結果は8月中旬までに通知する。
7. 採用者は発表要旨(500字以内)と、予稿集の原稿を所定の期日までに提出すること。これらの書式と締め切りは採用通知送付の際に改めて通知する。  
(2019年3月10日 改定)

[応募用ウェブサイトについて]

上記規定の 4-2 にある「研究発表応募用ウェブページ」は、7月10日より学会ウェブサイトから利用可能となります。

[お願い]

応募者の方々には、発表要旨のファイル送信に先立って、ファイル情報等に作成者名を残さないよう、ファイルの「プロパティ」等をご確認くださいますようお願いいたします。

##### 【応募上の注意】

研究発表と語法ワークショップの両方に同時に応募することはできません。  
また、二重投稿はご遠慮ください。

## ◆『英語語法文法研究』投稿募集

『英語語法文法研究』（第26号）への投稿を受け付けています。論文・語法ノートへの投稿は現代英語の語法および文法研究に資する内容のもので未発表論文に限ります。原稿ができた時点で早目に投稿していただければと思います。

近年インターネット上の用例を使用されている投稿論文が多いようです。インターネット上の用例を使用する場合は、インフォーマントチェックを必ず受けておいてくださるようお願いいたします。

なお、本規程の第5項以下が2015年8月の編集委員会・運営委員会で大幅に改訂されておりますので、ご確認をお願いいたします。

### ＜『英語語法文法研究』（第26号）の論文・語法ノートへの投稿規定＞

1. 投稿は会員に限る。
2. 投稿論文は現代英語の語法および文法研究に資する内容のものであり、未発表の論文であること。
3. 投稿締め切りは**7月10日(必着)**、採否決定を8月中旬、刊行を12月とする。
4. 論文の場合、長さは**34文字×31行、16枚**以内とする。語法ノートの場合、長さは**34文字×31行、6枚**以内とする。
5. 投稿者は、下記①②のファイルと③④のハードコピーを用意する。
  - ① 論文・語法ノートの原稿（MS WordファイルまたはPDFファイル）。冒頭には論文題名のみを記し、名前・所属は記入しないこと。ファイルの情報として作成者名を残さないこと（ファイルの「プロパティ」等を確認し、必ず作成者名を削除するか匿名にする）。
  - ② 執筆者情報（MS WordファイルまたはPDFファイル）。論文題名、氏名（ふりがな）、所属、連絡先の郵便番号と住所、電話番号、fax番号、email addressを明記する。なお、投稿論文が奨励賞の審査対象となることを希望する場合は、必ず、当該年度の投稿論文応募締切時点での年齢と、大学院修士課程あるいは博士前期課程を修了した年月（または在籍中ならばその旨）を、このファイルに明記すること。（奨励賞は、39歳以下、または大学院修士課程あるいは博士前期課程修了10年以内の学会会員に授与されます。）
  - ③ 論文・語法ノートの原稿（ハードコピー）。
    - ①をA4用紙に印刷した紙媒体の原稿1部。
    - ②執筆者情報（ハードコピー）。②をA4用紙に

印刷した紙媒体の別紙1部。

6. 入力に関しては、特に以下の点に留意すること。
  - a. 投稿の段階では原稿に謝辞を入れない。
  - b. 例文の前後に1行ずつ空白行を設ける。
  - c. 各節には見出しをつけ、節の前に1行ずつ空白行を設けること。
  - d. 外字、機種特有の文字・記号は使用しないこと。
  - e. 和文中の英語の語句の前後に半角のスペースを入れる。
  - f. 2桁以上の数字は半角を用いる。
  - g. 小説・論文の出典は下のように表記する。  
(S. Sheldon, *The Windmill*), (Declerck 1979: 123)
  - h. 注は脚注とする。
  - i. 上記以外は既刊号の論文を参考にする
7. 参考文献の書式は以下の例にならうこと。
 

Hopper, P.J. 1979. "Aspect and Foregrounding in Discourse." In T. Givón ed., *Syntax and Semantics* 12, 213-241. New York: Academic Press.

柏野健次. 1993. 「easy タイプの形容詞の3つの意味」衣笠忠司・赤野一郎・内田聖二（編）『英語基礎語彙の文法』145-154. 東京：英宝社。

小西友七. 1976a. 『英語の前置詞』東京：大修館。

小西友七. 1976b. 『英語シノニムの語法』東京：研究社。

Lasnik, H. and M. Saito. 1984. "On the Nature of Proper Government." *Linguistic Inquiry* 15, 235-289.

村田勇三郎. 1979. 「Functional Sentence Perspective」『英語青年』第125巻第3号, 20-21.

Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

van der Leek, F. 1996. "The English Conative Construction: A Compositional Account." *CLS* 32, 363-373.
8. 原稿の採否は編集委員会の審査により決定する。
9. 著者校正は1回とし、変更は字句の修正のみとする。
10. 原稿料は支払わない。
11. 応募書類の提出先。第5項の①と②のファイル（MS WordまたはPDF）はemailに添付して、編

集委員長宛にemail (segu.paper@gmail.com)で送ること。なお、件名を「投稿」とすること。第5項の③と④の紙媒体の原稿と執筆者情報(別紙)は、編集委員長宛\*に郵送すること(「投稿論文在中」と朱記)。

\*〒156-0045 東京都世田谷区桜上水3-25-40  
日本大学文理学部 吉良文孝  
(2015年8月4日改定)

**【応募上の注意】**  
研究発表との二重応募, 他学会の機関誌との二重投稿はできません。

### ◆英語語法文法学会第26回大会(報告)

英語語法文法学会第26回大会は2018年10月20日(土)に立命館大学衣笠キャンパスにて開催され、語法ワークショップ、研究発表、シンポジウムが行われました。多数の参加者があり、活発な議論が行われました。司会を務めて下さった澤田茂保先生、林龍次郎先生に感謝申し上げます。また、開催校委員の佐野まさき先生、滝沢直宏先生、佐藤詩恵先生、松田佑治先生、立命館大学の学生・院生の方々にもお礼を申し上げます。なお、本大会開催に対して開催校の立命館大学から補助金支給がありました。ここに記して感謝致します。

### 語法ワークショップ 10.30 - 11.38

(洋洋館3階 YY305 教室)

司会 金澤俊吾(高知県立大学)

1. 「結果動詞 break の語法について」  
岸野佐和子(無所属)
2. 「形式と意味の相互侵略—conceive と conceive of の場合—」金子輝美(元・愛知淑徳大学非常勤)
3. 「現代英語における in order to と so as to の存在意義について」  
西中圭亮(桜丘高等学校)・家口美智子(金沢大学)
4. 「「近くて遠い」と near and far—オクシモロンの観点から」  
田岡育恵(大阪工業大学)

### 研究発表 13.00 - 14.45

第1室(洋洋館3階 YY301 教室)

司会 澤田茂保(金沢大学)

1. 「The truth is that S. の構文パターン : truth の修飾語に焦点を当てて」  
西脇幸太(岐阜県立岐阜北高等学校)

2. 「物の使用目的を表わす不定詞関係節について」西前明(函館大学)
3. 「「形容詞+enough」による前置修飾と後置修飾」  
桑名保智(旭川医科大学)

第2室(洋洋館3階 YY302 教室)

司会 林龍次郎(聖心女子大学)

1. 「Did you ever...? と Have you ever...? の用法とその分布」  
山田美紀(金沢大学大学院)
2. 「束縛的モダリティを表わす need to と have to をめぐって」  
長友俊一郎(関西外国語大学)
3. 「動詞 invite の意味解釈と事象スキーマ」  
出水孝典(神戸学院大学)

### シンポジウム 15.35 - 17.45

(洋洋館3階 YY301 教室)

テーマ「英語の文法研究とレトリック」

司会 西田光一(山口県立大学)

1. 「-ing 名詞の意味とメトニミー」  
山添秀剛(札幌学院大学)
2. 「英語句動詞の多義性におけるメタファー」  
辻本智子(大阪工業大学)
3. 「英語修辭疑問文のレトリック性—after all を伴う事例を中心として」  
後藤リサ(関西外国語大学)
4. 「英語の広告における定名詞句の表現効果」  
西田光一(山口県立大学)

### 懇親会 18.00 - 19.30

諒友館食堂 Rosso

### ◆2018年度新入会員紹介

以下の方々が新しく本学会に加入してくださいました。どうぞよろしくお願ひ致します。  
(50音順。掲載希望者のみ。)

酒井 啓史(京都大学大学院)  
佐野 まさき(真樹)(立命館大学)  
高場 清子(九州大学大学院)  
竹中 裕貴(島根大学)  
平田 一郎(学習院大学)  
山田 美紀(金沢大学大学院)

[敬称略]

## ◆2017年度会計報告 (Apr. 2017-Mar.2018)

(第26回大会総会において承認されました)

(収入)		(以下、単位：円)
前年度繰越残高	2,404,880	
助成金 (全国大会開催校専修大学から補助)	150,000	
会費	1,570,000	
学会誌売り上げ	49,253	
懇親会費	212,000	
雑収入	116,001	
<b>計(1)</b>	<b>4,502,134</b>	
(支出)		
事務局費	11,481	
通信費	193,076	
旅費交通費	206,680	
印刷費	176,580	
人件費	9,000	
会議費	17,289	
消耗品費	17,374	
雑費	9,354	
雑誌製作費	577,498	
大会運営費	321,476	
<b>計(2)</b>	<b>1,539,808</b>	
<b>残高現在 [計(1)-計(2)]</b>	<b>2,962,326</b>	

## ◆年会費納入のお願い

本学会の年会費は、2013年4月1日より、「一般会員」は5,000円、「学生会員」は4,000円となっております。つきましては、2019年度(2019年4月～2020年3月)会費を同封の郵便払込取扱票でお支払いください。申し訳ありませんが、払込手数料は各自ご負担ください(郵便振替料金は120円(ATMからは80円)です)。金額欄が10,000円または8,000円になっている方は、前年度分年会費が未納ですので、併せて納入くださいますようお願いいたします。会費が2年連続して未納の場合は、会員資格が失効いたします。「学生会員」は郵便払込取扱票の通信欄に住所・氏名に加えまして、「在籍大学院名」もご記入ください。なお、学会からの配布物を確実にお手元にお届けするために、住所・所属に変更や異動のある方は、新住所・所属を郵便払込取扱票通信欄に明記いただくか、英語語法文法学会のウェブサイト (<http://segu.sakura.ne.jp/>) の「登録情報の変更」連絡用フォームにて事務局までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

## ◆新刊書紹介

- 八木克正.『英語にまつわるエトセトラ』東京：研究社. 2018年7月
- 大室剛志.『ことばの基礎2 動詞と構文』(「<シリーズ> 英文法を解き明かす—現代英語の文法と語法」2). 東京：研究社. 2018年9月
- 吉良文孝.『ことばを彩る2 テンス・アスペクト』(「<シリーズ> 英文法を解き明かす—現代英語の文法と語法」5). 東京：研究社. 2018年9月
- 大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦.『認知言語学研究の広がり』東京：開拓社. 2018年9月
- 中澤和夫. *A Dynamic Study of Some Derivative Processes in English Grammar: Towards a Theory of Explanation*. 東京：開拓社. 2018年10月
- 井上亜依.『英語定型表現研究の体系化を目指して—形態論・意味論・音響音声学の視点から』東京：研究社. 2018年12月
- 中右実.『英文法の心理』東京：開拓社. 2018年12月

## 編集後記

前任の事務局長である吉田幸治先生が事情により2017年度で一旦退任し、数年前まで事務局長であった私(五十嵐)が2018年度のみ事務局長に復帰いたしました。名簿・会計担当委員の前川貴史先生は通常よりも一年多く、三年間勤められました。諸業務に忙殺され、十分な対応が出来なかったところも多々あったかと反省しております。

2019年度は吉田先生が事務局長に復帰し、名簿・会計担当委員として吉川裕介先生が新たに就任します。そして、2020年度はまた別の方が事務局長を務めることとなります。このように3年連続で事務局長や名簿・会計担当委員が変更される異例の展開となり、会員の方々もやや混乱されるかと存じます。申し訳ありません。

2018年度も新規の事項を検討・実施いたしました。2019年度以降の研究発表等の応募規定の変更が検討され、メールへのファイル添付と Google Form を用いた投稿確認による応募手順を新たに作成いたしました。これにより、会員の皆さまが、郵便の到着日を気にしたり、郵送料を負担したりすることなくご応募頂けるようになりました。また、第25号を迎えた機関誌『英語語法文法研究』のデザインが一新され、表紙に英語のタイトルも加わり、洗練されたものとなりました。

今後とも新しくなっていく英語語法文法学会にご注目下さい。

(2019年4月12日 五十嵐海理)